

「教育県大分」 創造に向けた地域別意見交換会 in 日田 開催概要

[開催日：令和4年11月9日（水）]

【学校訪問】 日田市立三芳小学校

【訪問者】 大分県教育委員会（岡本教育長、教育委員、教育次長 他）
日田市教育委員会（三苫教育長、教育委員、課長 他）

【日田市立三芳小学校の概要】

学校の教育目標を「ともに学び ともに励み ともに伸びる『SDG's だれ一人置いていかない』～子どもがど真ん中～」、学校として育成を目指す資質・能力を「基礎的・汎用的能力～情報機器活用能力（使えるリテラシー、使いすぎないリテラシー、ICT情報ネットモラル）」とし、以下4つの重点目標を設定している。

- (1)自分の考えを相手に伝える力の習得
- (2)自己決定し、他者と協力しよりよい考えを作り出し表現する力の育成
- (3)学んだことを自覚し、生活に生かそうとする力の養成
- (4)業務改善意識の向上



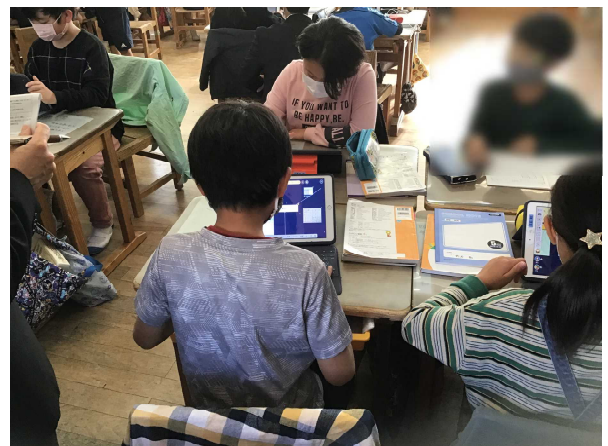
学校の取組について、ロイロノートで資料を共有し、説明（開会行事・三芳小学校概要説明）

【三芳小学校の特色ある取組】

- (1)「GIGA三芳校ICT五輪構想」に基づく「自学力・説明力」を発揮し、未知の状況に対応できる子の育成
「GIGA三芳校ICT五輪構想」とは①「個別学習、協働学習、一斉学習」②特別支援 ③特別活動 ④「オンライン、ハイブリッド」⑤情報モラルリテラシー の五輪でICTの積極的利活用を推進している。授業では「ロイロノート」による意見の交流・共有を踏まえ、自分の考えをアウトプットする場を設定し、児童の協働的な学びを充実させている。
- (2)目的ごとに異なる授業形態を実施
 - ・ICT型（子どもたちが「わかりやすく、楽しい」授業の追及 教師のICTスキルアップ）
 - ・互換授業（担任を入れ替えて担任外のクラスで授業 組織的な人材育成）
 - ・マイプラン学習（個別最適な学び「学習の個別化」に向けて児童が進める授業）
 - ・金四先生（徹底したドリル学習 知識・技能の習得）
- (3)ウクライナ避難民児童への日本語指導

【学校訪問での意見交換内容】

- ・「マイプラン学習」では、子どもたちが先生役を担っていた。こうした学習は「船頭多くして船山に登る」になりがちだが、そうならず一人ひとりが課題解決に向かっていた。新しい学びのスタイルだと感じた。
- ・「三芳の真心」はいつも時代にも通ずる普遍的なもの。永年にわたってその精神を引き継いでいる。その真心がICTと連携できている。伝統と新たなことのバランスをとりながら進めてほしい。タブレットで入力することと、自分の手で書く等のバランスを再考してほしい。
- ・タブレットに入力する速さから日頃より使い慣れていることがうかがえた。「音の出る絵」など子どもの発想を大切にしている。アナログとの併用で子どもたちが今後も意欲的に学べるよう進めてほしい。



タブレット端末を用いた授業の様子（4年 算数）

【意見交換会テーマ】 令和の日本型教育

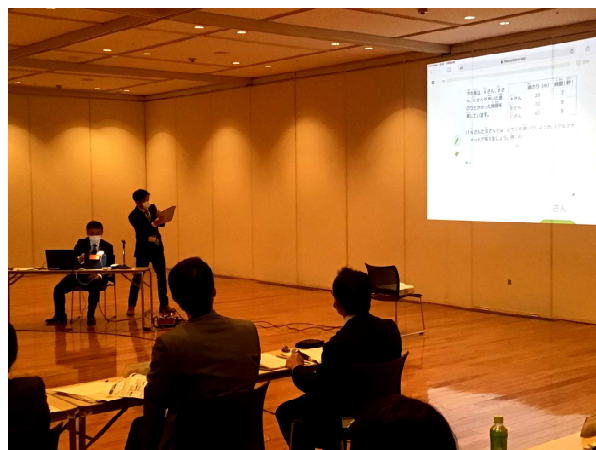
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて～

【出席者】 学校訪問参加者及び学校等関係者

【「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた取組】

(1)ICTを効果的に活用した児童生徒の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の取組

- ・「個別最適な学び」に向けては主に「AIドリル（Qubena）」を活用し、知識・技能の確実な定着を図っている。また、家庭学習と授業の連動としてもAIドリル（Qubena）を活用している。
※AIドリル（Qubena）の実演
- ・「協働的な学び」に向けては主に「ロイロノート・スクール」を活用し、シンキングツールによって自分の考えをタブレット・紙面上で可視化したり、友達の考えと比較・検討したりするなどして、自分の考えを再構築し、協働的な問題解決学習を進めている。



AIドリル（Qubena）についての説明
（日田市教育委員会 阿部主幹）

(2)「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた教員の指導力向上に係る取組

- ・市内全小中学校の全教員を対象とした訪問型研修（夏季休業中に2時間×2回 AIドリルとロイロノートスクール）の実施により、教員のICT活用スキルの向上を図っている。
- ・ICT活用の市指定研究（R2～R4三芳小 R4～R5東部中）により教員のICT活用指導力の向上に向けての取組が組織的に進められている。またそれにより、双方向の人材育成が進んでいる。
- ・科学の甲子園ジュニア日田大会の実施。（教員の指導力向上及び中高連携 ※日田校SSH）

【主な意見】

- ・「個別最適な学び」イコール「AIドリル」ではないと思う。予習の重要性を意識して子どもたちを注視してもらいたい。
- ・科学の甲子園をふり返ると子どもたちは解いたこともない難しい問題を真正面からぶつかり、真剣に考えていた。未知の問題を解いたときの達成感を味わえたのではないか。学校でもこのような課題を与えていきたい。
- ・三芳小の取組に感動した。子どもたちが学びに向かっており、課題をしっかりと引き受けている。先生方の指示が明確で説明も最小限にとどめている。
- ・「個別最適な学び」は「指導の個別化」と「学習の個性化」に分けて考えてほしい。「指導の個別化」についてのAIドリル活用はよくわかった。「学習の個性化」については課題の選択やアプローチの方法などに目を向けていてもらいたい。



意見交換では、「個別最適な学び」とICTとの関連について活発な議論が交わされた

【意見交換を終えて（三笥日田市教育長から）】

- ・AIドリルは知識・技能の定着により、学力向上につながると考えている。「個に応じた指導」と「学習の個性化」について取組を進めていきたい。咸宜園教育の理念として「治めて後学ぶ」がある。今日いただいた多くのご意見を持ち帰り、今後の取組に生かしていきたい。